



2016 年度 日本医科大学入試 生物 解答速報

I

- 問1. ア…極体 イ…微小管 ウ…中心体 エ…8 オ…胞
細胞骨格…(あ), (お), (き)
- 問2. (1) A群…(か) B群…(き) C群…(う) 配偶子…16通り
(2) A群…(い) B群…(い) 時期…⑥
(3) (あ)…①, ②, ④, ⑤ (い)…⑤ (う)…① (え)…⑦, ⑧
(4) 雌…(あ), (い) 雄…(い)
- 問3. (お), (え), (き), (く), (い)
- 問4. (あ), (う), (か)
- 問5. (1) (あ) (2) (か)
- 問6. (1) (う) (2) (お) (3) (い), (え)

II

- 問1. ア…(け) イ…(い) ウ…(く)
- 問2. (あ), (え), (か)
- 問3. (1) (か), (き) (2) (う), (お), (く)
- 問4. (1) (あ), (お), (う), (い), (え)
(2) ナトリウムイオン…内 カリウムイオン…外 ATP…内
- 問5. (あ), (い), (う), (え), (か)
- 問6. 61kg

III

- 問1. (あ)
- 問2. I群…(う) II群…(い)
- 問3. (1) I群…(う) II群…(あ)
(2) I群…(お) II群…(え)
- 問4. (え)
- 問5. (う)

【講評】

I : 問1の細胞骨格の問題が細かな知識問題であった。問2の(3)の(ア)は解答に⑧を含めるかどうか悩む。
問3の受精過程の問題もやや細かな知識問題であった。

II : 問3の(1)は共生説をイメージして解く問題である。問4のナトリウムポンプの問題が細かな知識問題であった。問6の計算問題はふつうである。

Ⅲ：実験考察問題は、昨年と同じくシグナル伝達の問題であり、昨年よりは解きやすい問題であった。リード文で問題設定をしっかりと理解する必要がある。ここでの得点差が合否に大きな影響を与える。

大問数、解答数ともに昨年と同様であった。Ⅰ、Ⅱが知識中心で、Ⅲが考察問題であるところも昨年と同じであった。時間的には余裕があり、Ⅲの考察問題に十分な時間をかけることができたであろう。Ⅰ、Ⅱの知識問題ではすべてを答える問題が多く、そこでの失点を最小限に抑えられるかがポイントである。一次合格には80%程度、正規合格には85%程度の得点が必要と考えられる。